



親学ファシリテーター

8月30日
(火)

—ファシリテートに必要な 知識と技術を学ぶ—

養成講座

【説明 I】はじめに —われわれが目指していること—

いじめ・児童虐待予防に対応したプログラムは、ファシリテートをするにあたり「難しそう」「私には無理」という声が聞かれますが、これまでの“楽しく”“互いに”“体験的に”は変わりません。開発したプログラムと養成した地域人材の市町村における活用、いじめや児童虐待の予防につながる“親の力”の向上、地域ぐるみで親や子どもの育ちを支える“地域の力”の向上を目指しています。

【講義 I】いじめの正しい理解

浜田教育事務所 指導主事 大達 高弘 氏

○いじめの定義

「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、心身の苦痛を感じているもの」
(その中でも、「ネットいじめ」は極めて深刻でいろいろな問題をはらんでいる)

○いじめの構造 …4層構造 [被害者・加害者・観衆・傍観者]からなっている

○いじめの経験 …被害・加害経験のない児童生徒は1割程度、いつでもどこでも誰にでも起こりうる

○いじめの透明化…いじめは見ようとしなければ見えない

○いじめの要因 …[友人ストレス] [競争的価値観] [不機嫌怒りストレス]

これらを緩和するためには、



- ・教師や保護者が日々の関わりや働きかけを見直す工夫をしたり、自己肯定感・有用感が感じられる場をつくる
- ・保護者として大人として、襟を正し子どもの手本となるよう人権意識を高めていく



【講義 II】児童虐待の正しい理解

益田児童相談所 判定保護課課長 岩本 正義 氏

○児童虐待の定義

「保護者が監護する児童に対して行う行為で、身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待がある」

○虐待を疑わせるサイン…子どもの状況(不自然な傷、発育不良、常に空腹、凍りついた腫など)

子どもの特徴(ベタベタやあっさりした別れ、落ち着きがない、場面場面で態度が異なるなど)

○子どもが虐待の事を話し始めた時の注意点

- ・話のできる関係を築く(子どもが問題を起こしているのではないことを伝える)
- ・問題点の確認
- ・事実確認(誰が?何をしたのか?)
- ・安全確認
- ・通告

○子どもを虐待から守るための5か条

1. 「おかしい」と感じたら迷わず連絡
2. 「しつけのつもり…」は言い訳
3. ひとりで抱え込まない
4. 親の立場より子どもの立場
5. 虐待は私たちの周りでも起こりうる

○虐待者について…人権侵害の当事者ではあるが、生育歴、貧困、社会的孤立などにより援助を要する人でもある



【説明 II】「親学プログラム2」開発の趣旨と方向性

○開発の趣旨

いじめ・児童虐待の防止、早期発見・支援のために

いじめ・児童虐待の特徴として、潜在化しやすい、背景に多様な問題がからんでいることから、単一機関だけでの問題解決は困難であり、各問題に対する多面的なアプローチをする必要がある。プログラムの開発アドバイザーである島根大学の肥後功一教授は“地域の実情に応じた小回りの効く実効性のあるチームづくりの必要性”を話されている。

新プログラム —防止の視点—

「親と子の関係性において」…

最初から完璧な親、完璧な子育てはない。親も学習したり認められる体験をすることで、自信・信頼がうまれる。困ったり、不安になったりしたら、「助けて!」「教えて!」と言っていい。

「地域から見た視点において」…

いじめ・虐待は特別なことではない。「助けて!」「教えて!」への支え、受け皿になれるように。

○方向性 —大切にしてきた5つの観点—

- ①親同士が日頃の子育てをふりかえり、知識・経験・不安・悩みなどを出し合い、親としての役割や子どもとのかかわり方の気づきを促す。
- ②いじめや児童虐待の未然防止
- ③対象は全ての子育て層。いじめや児童虐待予防につながる“親の力”“地域の力”を育成
- ④「親学プログラム2」の3つの柱
「様々なつながりをつくる」「親の社会的役割について考える」「いじめや児童虐待について考える」
- ⑤地域人材[親学ファシリテーター]の養成…ファシリテーターの方に負担がかからないプログラム開発を!



アイスブレイク
 ・あながたどこさ
 ・せーのパン
 ・なんでやねん



【説明・演習】「親学プログラム2」のそれぞれの内容説明とプログラム体験

2-②「“オトナ”の役割を考える」（親の社会的役割について考えるプログラム）
 子どもたちの具体的な生活場面を想定して、“わが子の場合”“知っている子の場合”
 “知らない子の場合”のかかわり方・しかり方を考え、比較することで、大人（親）として
 の社会的な役割に気づき、自分ができていることを考える。



3-①「われわれオトナにできること」（いじめ予防について考えるプログラム）
 いじめの問題を解決する上で、大人の役割が重要であることを知る。
 そして、いじめを予防するために自分自身ができることを考える。



4-③「こんな時、わたしなら・・・」（児童虐待予防について考えるプログラム）
 日常の中で親子のイライラが高まってしまったエピソードを聞き、その事例につ
 いて考え、話し合い、自分をふり返ることで、子どもとのかかわり方を考える。

【説明Ⅲ】「親学プログラム2」を効果的に実施するために

「親学プログラム」の目的である「家庭内における親の成長・自己実現の支援」に加え、「親学プログラム2」では「地域社会における親の成長・自己実現の支援」を目的に開発されました。この2つをセットにし実施することで、新たな学びを獲得するサイクルを創出し「考える親集団」「行動する親集団」が育っていくと考えます。系統的に段階をおって、支援していけるよう、シリーズ講座での実施をおすすめします。また、配慮が必要なプログラムもありますので、企画・実施にあたっては、ねらいを明確にし、参加者の実態等の掌握に努めるため、主催者等と打ち合わせをきちんとされることをお願いします。肥後先生がおっしゃった「さまざまな人のあり方（異なる意見や考え方、態度や行動）を理解しようとする」「人（よその子）も自分（わが子）も等しく大切にしようとする」を皆様方が実感していただければ幸いです。

【意見交換】「親学プログラム2」のファシリテートにあたって



感想

- ・自分の子育てをもう一度やり直したい
- ・でもやっぱり、ファシリは不安
- ・いじめのファシリはちょっと・・・
- ・「親学」のネーミングがやはりカタイ
- ・ファシリテーターの依頼があれば頑張ってみようと思う
- ・参加者を信頼することが成功のカギ！

いいね！

- ・いじめに関して再認識できた
- ・プログラムのファイルとても便利です
- ・子どもに優しく向き合えそう
- ・笑顔になる
- ・親学2はよく考えられている
- ・参加者ひとりひとりが尊重されるのがいい
- ・アイスブレイク使います
- ・これまでより子育てについて深い内容になっていて、より意見を深められる

- ・参加して楽しいと思えることが大事
- ・親のネットワークが広がる
- ・いじめをなくすことは難しいが、親学に参加した保護者がいじめに向き合う機会になればいい
- ・高校生くらいが一度体験するのがいいのでは
- ・3～5回で提案できるセットマニュアル
- ・地域の子どもに「悪いことは悪い！」と教えてあげられる人に

○期待すること ○広げていくために ○要望

- ・親学講座に参加できなかった保護者にも、わかりやすいまとめを作って広報すべき
- ・学校・福祉との連携
- ・とにかく発信！
Facebook とかで
- ・企業に声かけ
- ・モデル実施校があれば